

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒101-8228

住 所 東京都千代田区神田猿樂町2-8-8

氏 名 大林道路株式会社

代表取締役社長 黒川修治 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	大林道路株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区小島町8番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	アスファルト混合物の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	986	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 4,492	(実) 3,898	(実) 4,002	(実) 1,837	(実) 4,357
	(調) 4,285	(調) 3,915	(調) 3,977	(調) 1,837	(調) 4,156
削減率		(実) 13.2%	(実) 10.9%	(実) 59.1%	(実) 3.0%
		(調) 8.6%	(調) 7.2%	(調) 57.1%	(調) 3.0%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(任意記載)

原単位等の活動量	4285				原単位等の単位	CO2/t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
排出量原単位等の値						
活動量の値						-
排出量原単位等の削減率		%	%	%		%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	工場使用電力については、FIT非化石証書付電力に切り替え、及び工場内使用重機の動力燃料は代替軽油GTLを使用することにより、温室効果ガス排出量削減には一定の効果があった。FAM設置することで中温化合物出荷が可能となり、化合物出荷温度低減及びアスファルト量削減によりCO2排出抑制になった。	
第2年度	工場使用燃料については、カーボンニュートラルガスに切り替え、工場使用電力については、FIT非化石証書付電力を継続使用しており、工場内使用重機の動力燃料は代替軽油GTLを継続使用することにより、温室効果ガス排出量削減には一定の効果があった。FAM設置することで中温化合物出荷が可能となり、化合物出荷温度低減及びアスファルト量削減によりCO2排出抑制に一層努めている。	
第3年度	前年度に比べて化合物出荷数量が大幅に減少したことにより、電力・ガス使用量も大幅に減少した。それに伴ってCO2排出抑制に繋がったものと思われる。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		電力・ガス使用量減少の影響もあり、計画時目標排出量削減率3%を大幅に下回った削減結果となった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		前期分(第3年度)の使用量は化合物出荷減による使用量減少による影響が大きい結果となった。以後、計画時には、過去の出荷実績を踏まえた数値を検討したい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)(任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理計画を策定し、PDCAサイクルを適切に運用する。 2. ヒーターの温度調整、使用時以外切る等不要電力の削減に努める。 3. 毎月第二週目土日連続閉所の実施により、温室効果ガスの削減に努める。 4. 工場使用電力については、第1年度7月を目途にFIT非化石証書付電力の購入に切り替える。 5. 工場使用都市ガスについては、第2年度中にはカーボンニュートラルガスの購入に切り替えたい。 6. 工場内使用重機軽油は代替軽油GTLを使用する。CO2排出量8.5%減が見込まれる。 7. 中温化合材出荷に対応するために、FAMを設置する。合材出荷時の温度低減及びアスファルト量削減によりCO2排出抑制に繋げる。
<p>第1年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理計画を策定し、PDCAサイクルを適切に運用した。 2. ヒーターの温度調整、使用時以外切る等不要電力の削減に努めた。 3. 毎月第二週目土日連続閉所の実施により、温室効果ガスの削減に努めた。 4. 工場使用電力については、第1年度(2022年7月)にFIT非化石証書付電力に切り替えた。 5. 工場使用都市ガスについては、第2年度(2023年7月)にカーボンニュートラルガスの購入に切り替え予定。 6. 工場内使用重機軽油は第1年度(2022年4月)から代替軽油GTLに切り替えた。 7. 中温化合材出荷に対応するために、FAMを設置した。合材出荷時の温度低減及びアスファルト量削減によりCO2排出抑制に努力した。
<p>第2年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理計画を策定し、PDCAサイクルを適切に運用した。 2. ヒーターの温度調整、使用時以外切る等不要電力の削減に努めた。 3. 毎月第二週目土日連続閉所の実施により、温室効果ガスの削減に努めた。 4. 工場使用電力については、FIT非化石証書付電力を継続している。 5. 工場使用都市ガスについては、第2年度(2023年7月)にカーボンニュートラルガスの購入に切り替えた。 6. 工場内使用重機軽油は代替軽油GTLを継続している。 7. 中温化合材出荷に対応するために、FAMを設置した。合材出荷時の温度低減及びアスファルト量削減によりCO2排出抑制に努力している。
<p>第3年度</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理計画を策定し、PDCAサイクルを適切に運用した。 2. ヒーターの温度調整、使用時以外切る等不要電力の削減に努めた。 3. 毎月第二週目土日連続閉所の実施により、温室効果ガスの削減に努めた。 4. 工場使用電力については、FIT非化石証書付電力を継続している。 5. 工場使用都市ガスについては、前年度導入したカーボンニュートラルガスを継続している。 6. 工場内使用重機軽油は代替軽油GTLを継続している。 7. 中温化合材出荷に対応としてFAMを設置したことで合材出荷時の温度低減及びアスファルト量削減によりCO2排出抑制に努力している。
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>電力・ガス使用料減少及びFIT非化石証書付電力、カーボンニュートラルガスの導入によりCO2削減の一定の効果はあったものと考えます。</p>

2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()	×	
その他 ()	×	

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	×
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車の新規購入・更新にあたっては、ハイブリッド自動車などの低燃費車両を原則とする。 2. エコドライブを実践するため、簡易マニュアル等を配布するなど、従業員に対するエコドライブ教育を継続する。
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車の新規購入は、ハイブリッド自動車などの低燃費車両を導入した。 2. エコドライブを実践するため、従業員に対するエコドライブ教育を継続した。
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイブリッド自動車などの低燃費車両を継続して使用している。 2. テレマティクスを設置しており、急発進・急ブレーキ抑制により、エコドライブの管理に努めている。
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイブリッド自動車などの低燃費車両を継続して使用している。 2. テレマティクスを設置により、急発進・急ブレーキが抑制にされ、エコドライブの管理が継続されている。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	4,492 t-CO ₂	3,898 t-CO ₂	4,002 t-CO ₂	1,837 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	2,396 KL	2,013 KL	2,101 KL	986 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等单位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
川崎アスファルト混合所	川崎市川崎区小島町8番2号	4,492	3,898	4,002	1,837

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度